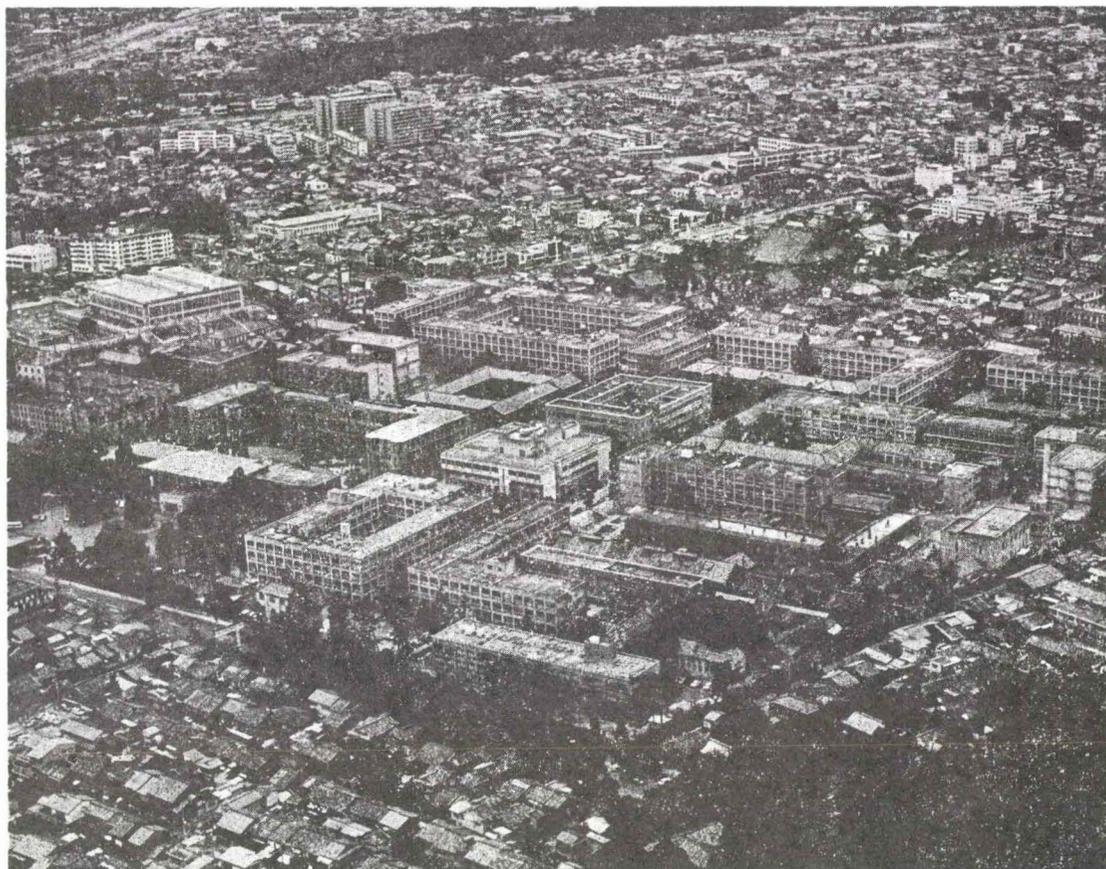


京大広報

No. 137

京都大学広報委員会



吉田山上空から見た本学キャンパス

目次

昭和52年度入学者選抜 学力試験の結果…………… 2	<随想> 広報についての思い出 名誉教授 前田 敏男…………… 3
分限処分の審議経過 (1)…………… 2	<紹介> 理学部附属機器分析センター…………… 4
白浜海の家開設…………… 2	

〈大学の動き〉

昭和52年度入学者選抜学力試験の結果

昭和52年度入学者選抜学力試験は、さる3月3日(木)から5日(土)までの3日間にわたり、国語、数学、外国語、理科および社会の5教科について配当時間計11時間30分の筆答方式によって

行なわれた。

なお、学力試験合格者氏名は、さる3月19日(土)に学部ごとに発表された。募集人員は2,506名であったが、各学部における審査の結果、合格者数は2,511名となった。学部別の受験者数および合格者数等は下表のとおりである。

昭和52年度学部別受験者数、合格者数

学 部	募集人員	志願者数	受 験 者 数		欠席率	合 格 者 数	合格者得点	
							最高	最低
文 学 部	200	954	845	4.2倍	11.4%	200 (44)	740	559
教 育 学 部	50	260	227	4.5	14.5	51 (14)	664	541
法 学 部	330	1,487	1,299	3.9	12.6	330 (16)	695	570
経 済 学 部	200	672	594	3.0	11.6	202 (2)	709	541
理 学 部	281	1,199	1,065	3.8	11.2	281 (14)	739	569
医 学 部	120	700	552	4.6	21.4	121 (6)	763	620
薬 学 部	80	274	243	3.0	11.3	81 (43)	666	525
工 学 部	945	2,809	2,468	2.6	12.1	945 (6)	711	465
農 学 部	300	820	718	2.4	12.4	300 (38)	630	482
計	2,506	9,175	8,011	3.2	12.7	2,511 (183)		

- (注) (1) 受験者数、欠席率は最終日(社会)のものである。
 (2) 合格者数の()内は女子で、内数である。
 (3) 各学部とも900点満点である。

分限処分の審議経過 (1)

本学経済学部竹本信弘助手の分限処分の審議については、さる2月1日開催の評議会において、継続議題として審議を再開することになった旨、京大広報 No.135 に掲載いたしました。

その後、評議会において従前の審議の経過をふまえ、事実問題について慎重に審議を重ね、連絡

不能と欠勤認定について一応の了承が得られたので、事実問題を中心に参考人を要請することいたしました。

評議会においては十分慎重、公正に審議を行なうよう努力しておりますので、各位のご理解をお願いする次第であります。

昭和52年3月15日

京都大学総長 岡 本 道 雄

白浜海の家開設

このたび、白浜海の家を下記のとおり開設しますので、本学の学生および教職員はふるって利用してください。この海の家は、三段壁を初め千畳敷、円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海にも近く、夏には海水浴に最適のところです。

なお、建物は木造平屋建(居室は、和室で3室)

で、収容定員は35名です。

記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内
(交通機関) 国鉄紀勢線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行に

〈 紹 介 〉

理学部附属機器分析センター

機器分析センターは、昭和50年4月理学部附属施設として新設されたもので、本センターは、人文科学をも含む全学のあらゆる研究面で必要とする化学分析データを迅速に提供するため、多様化した大型分析機器を集中し能率的な共同利用を実施することを目的としている。

設立までの経緯をたどると、昭和37年発議され、昭和40年関係部局委員による準備委員会を発足、理学部化学教室に所属している分析機器の主たるものを前述の趣旨に基づいて、旧化学教室の一部に移し、関係部局の依頼に応じ得るよう利用の途を講じ、さらに昭和43年には現在の化学教室の地階を整備、設備を移転することになり翌年移転調整が完了。昭和45年には管理運営委員会を置き実質的業務を開始、こうした実績の積み重ねが認められた結果、昭和50年度ようやく附属施設として独立が実現した。

昭和51年6月、理学部化学教室地階機器室のほか旧工学部石油化学科の建物の一部の転用改装工事が完成し、本部実験室、センター長室が整備された。また関係部局から参画を得て運営協議会を置き、センターの運営、企画等について協力を得ている。

センターの業務内容は、次のとおりである。

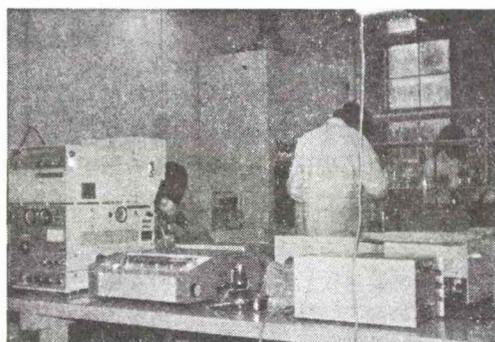
センターでは公開講演会を開催し、またセン

ター利用研究の成果を発表する季刊の **IARC Reports** を発刊する等、機器分析の進歩について紹介に努めている。

分析機器の種別により光学分析室、質量分析室、放射分析室、電気分析室、分離分析室、物性定数測定室及び本部実験室に分け、自記分光々度計、GC質量分析計、液体及びガスクロマトグラフ、ポーラログラフ、ラジオクロマトスキャナー等々の20数種の分析機器の共同利用を行なっており、特にアミノ酸分析については依頼分析に応じている。

こうした経緯をへて、本センターも逐次充実しつつあるが、なお設備機器、人員等の不足により全学の共同利用の希望を満足に実施できないうらみがある。

今後とも関係方面のご理解とご協力を得て一日も早く所期の目標に到達しうよう努力してゆきたいと考えている。



機 器 の 利 用 状 況

	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
ガスクロマトグラフ 液体クロマトグラフ	444時間 220件	1216時間 112.7件	561.5時間 80.1件	759.5時間 60.4件	838時間 51.3件	1165.5時間 116.6件	873.6時間 109.4件	565時間 155件
CEC質量分析計 三菱二重収束形質量 分析器	1380時間 1130時間	970時間	890時間	1050時間	1210時間	1400時間	1500時間	1500時間
ポーラログラフ 電 解 装 置	573件	970時間 50時間	950時間 85時間	905時間 180時間	710時間 415時間	1050時間 100時間	810時間 20時間	169時間
原子吸光分析装置						33.5時間	46.5時間	149時間
アクチグラフ ガスフローカウンター	180時間	110時間	12時間	34時間	59時間	19時間	24時間 6時間	68時間
分 光 光 度 計	1259時間	1102時間	365時間	267時間	843時間	489時間	174時間	495時間
G C 質 量 分 析 計								213件